



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんがお坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高！](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第8回 生まれ変わり

BI 0 チェック いいね! 0 Tweet

先日、ブータンへ行ってきました。ブータンは、中国とインドにはさまれたヒマラヤの王国で、人口70万人、面積はだいたい九州と同じくらいです。世界で唯一、チベット仏教を国教に定めた仏教国として知られるブータンで、このたび、新しい国王の戴冠式がありました。私もご縁あって、この祝賀イベントに参加させていただいたのです。

ブータン滞在中、ひとりの女性と友達になりました。文化的な家庭に生まれ育った美しく聡明な人で、一目会った瞬間に私は、(この人は、ほかの人とは何かが違う)と思いました。そう思わせるような独特のオーラを、彼女が放っていたからです。嬉しいことには、彼女のほうでも私のことを「特別な存在」だと感じてくれたようで、私たちはすぐに打ち解け、まるで何十年来の友達のような深い親しみをお互いに感じながら、堰(せき)を切ったように色々なことを話し始めたのでした。

それによると、彼女には20代の息子さんが4人いらっしゃって、末っ子は「トゥルク」だということでした。「トゥルク」とは、チベットの言葉で「転生活仏(てんしよふ・かつぶつ)」を意味します。チベット仏教では、偉いお坊さんが亡くなると、その魂は衆生を救うために再びこの世に生まれ変わってくると信じられており、生まれ変わりのお坊さんのことを「転生活仏」と呼ぶのです。

ヒマラヤには「転生活仏」がたくさんいらっしゃいます。そのなかでいちばん有名なお坊さんと言えば、ダライ・ラマ14世や、パンチェン・ラマ11世、それにカルマパ17世などでしょう。しかし、ヒマラヤの仏教では、それぞれの宗派が宗派ごとに異なる転生活仏を認定しているため、全部でいったい何人の活仏がいらっしゃるのか、正確な数字は誰にもわからないのです。

いずれにしても、私がブータンで友達になった女性の息子さんは、そうした大勢の「トゥルク」のなかの一人なのでした。

「末の息子をお授けしたときは、不思議な夢をたてつづけに見たわ」

彼女は、昔を思い出すように遠くのほうを見ながら言いました。

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



「ある夜、夢のなかで私が広い大地を歩いていたら、たくさんの牛の糞(ふん)が落ちていたの。怪訝に思いながら一つを取り上げてみると、糞の裏側には、なぜかお釈迦さまの足跡が刻まれていたのよ。驚いた私が次の糞も拾い上げたところ、今度もやっぱり、裏側はお釈迦さまの足跡。落ちていた牛の糞すべてに、お釈迦さまの足跡が刻まれていたの！ 次の夜も、そのまた次の夜も似たような夢を見て、これはどうしたことかと不審に思っていたら、息子を授かったというわけ」

牛の糞にお釈迦さまの足跡とはなんとも奇妙な夢ですが、もっとも、ブータンを含むインド周辺の国々では、総じて牛は神聖な生き物と考えられています。それに、お釈迦さまのお名前(俗名)である「ゴータマ」は「たいへん素晴らしい雄牛」という意味で、牛にゆかりがあるのです。牛の糞にお釈迦さまの足跡という夢は、実はたいへんな吉兆だったのかも知れませんね。

さて、息子さんが3歳ぐらいになったある日のこと、彼女の家は何の前ぶれもなく偉いお坊さんたちがやって来て、「あなたの息子さんは転生活仏と認定されました」と、うやうやしく告げたのだそうです。

いきなりそんなことを言われたら、同じ仏教徒でも日本人なら吃驚仰天して「ドッキリカメラじゃないの？」と疑ってしまうところですが、輪廻転生を当然のこととして受け入れているブータン人の彼女は、息子が転生活仏だと言われても、さほど驚きはしなかったようです。それに、例の奇妙な夢のこともありましたから、彼女はいつかこんな日が来ることを薄々感じていたのかも知れません。「それがこの子の天命なら」と、すぐに事実を受け入れて、息子さんをお寺へ差し出したのでした。

ちなみに、チベット仏教における転生活仏の選出方法は、とてもユニークなものです。『リトル・ブッダ』という映画をご覧になった方は覚えていらっしゃるかも知れませんが、例えば、亡くなった偉いお坊さんが別の人の夢の中に現われて「自分の生まれ変わりはどこそこにいるから、そちらを探しなさい」と教えてくれたり、あるいは、生まれ変わりの子どもがいる場所の上空に瑞雲が湧いたり、湖面に吉兆を意味する梵字が現われたり、といったことが起こるのだそうです。

そうやって選ばれた子ども(活仏の候補者)に、今度は色々なテストをするわけですね。同じ形の数珠をたくさん並べて、亡くなった偉いお坊さんが愛用した数珠も混ぜておき、そのなかから前世の自分が使っていた数珠を選ばせる、といったテストが、いくつも行なわれるようです。

にわかには信じられないミステリアスな方法に聞こえるでしょうが、ヒマラヤの仏教では、お坊さんは(宗派にもよりますが)基本的には生涯結婚なさらず、お寺の世襲制もありません。代わりにあるのが、偉いお坊さんが亡くなるとその「生まれ変わり」の子どもを探すという、実に壮大で不可思議なやり方なのです。

一見、ひどく非科学的なやり方に見えるかも知れませんが、この方法の良いところは、最初に優秀な子どもを選んで、幼児期から最高の教育を施せること。生まれた息子がグータラでも跡を継がせてしまう世襲制よりは、格段に筋の通った方法ではないでしょうか。

さて、あれから約20年。彼女の息子さんは、今は山奥の寺に籠って、特別な行(ぎょう)に励んでおられるそうです。それは厳しい行で、3年のあいだ人に会ってはいけない。両親や兄弟はもちろん、仲間のお坊さんにも、食料品などを運んでくれる村人にも、誰とも会ってはならない。暑い夏も、マイナス何十度の厳寒期も、ただひたすら一人でお経を読み、修行を続けなくてはならない。そういう孤独な修行を、息子さんはもう2年半も続けていらっしゃるそうです。

淡々と話す彼女の横顔を見つめながら、私はふと厳肅な気持ちになりました。大げさに聞こえるかも知れませんが、私はこのとき、仏性(ぶつしょう)というものの本質を、はっきりとこの目で見たような気がしたからです。

彼女の息子さんが本当に偉いお坊さんの生まれ変わりなのかどうか、それは私にはわかりません。そもそも、輪廻転生というものが果たして存在するのか、それだって証明できません。

けれども、科学的とか非科学的とか、そんなことは、この際どうでもいいと私は思いました。重要なのは、ある男の子が3歳のときに「転生活仏」に認定され、彼はその後の人生を、自分の運命にひたすら誠実に、一心不乱に生きてきたという、そのことなのです。また、お腹を痛めて彼を生んだ母親も、その運命を丸ごと受け入れ、周囲の人々は一人残らず彼を高僧の生まれ変わり信じ、最大限の敬意を払っている。

この一連の心の動きを「仏性」と呼ばずして、いったい何を仏性と呼ぶのでしょうか。

「信じる者は救われる」という言葉があります。プータンでの出会いを通じて、私は、多くの日本人が近代化のなかで失ってしまった「無心に信じる」という感情を、懐かしく思い出さずにはいられませんでした。

◀ 第7回 お葬式の意味 第9回 犬に引かれて ▶

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



医療法人を設立する前に

医療法人になるメリットだけではなく デメリットも知っていますか? eedr.com/へ進む





© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)
[しいなまち みとら](#)
[こんごういんキッズ](#)
[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)
[唱えてみよう!](#)
[ないけんしてみよう!](#)
[東京お寺めぐり](#)
[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)
[仏教いちねんせい](#)
[まんが 小坊主くん!](#)
[ぶつ仏クイズ](#)
[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)
[金剛院NewS](#)
[金剛院について](#)
[金剛院の四季](#)
[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)
[おすすめリンク集](#)
[バックナンバー](#)
[サイトマップ](#)

医療法人を設立する前に

医療法人になるメリットだけではなく デメリットも知っていますか?
[eedr.com/へ進む](http://eedr.com/)

